

市役所から1ブロック北にはラ・メルセド教会がある。1615年に建設された、オリジナルなデザイン教会であったが、いまは国立自治大学の一部として使われている。エル・カルバリオ教会はネオ・クラシック調の祠堂で、キリストの3つの派手な十字架像が訪れる人をびっくりさせる。また、サンティニスタ革命で犠牲になった勇敢な市民のレリーフが、鐘撞堂(鐘楼)に飾られている。

## 巧みなスラムレ 定住化問題の対策

レオンの近郊にウィリアム・フォンセイカという集落がある。ここは公有地であるが、農村からの流出者たちが不法占拠していたのを定住化させ、仕事を獲得するための技術を修得させ、かつ、



市内の家屋のほとんどが平屋建てで、赤瓦を敷いている。どの家屋の中心にもチャイコが設けられ、上から眺めても美しい



街区は2車線の道路に隔てられ、道路は玉石で舗装されている



レオンの南は谷になっている。大聖堂は、対岸からもよく見える



エル・カルバリオ教会。左右対象の鐘楼をもつ、ネオクラシック・タイプのデザイン

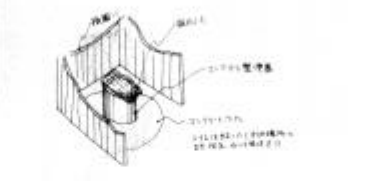


大聖堂の脇。正面から見るよりも、趣がある?

住居を得るために市が住宅団地を造成した。1区画が20×8mの面積をもち、日本では考えられない面積だ。といっても、平坦な土地に区画割りを決めただけのような造成で、上水道はあるものの、下水道は整備されていない。便所は、庭に吸い込み式の穴を掘り、雑排水も浅い素掘りの側溝に流し込み、最後には河川の上流に流れ込んでいる。環境の悪化が1つの課題となっていて、それでも、住宅を得たいと思う人に土地を分譲し、家を建てるためのレンガや建具のつくり方を実習として教えている。自分の家の建築材料は自分でつくらせ、自分で建築させるのだ。

すると、自分の家が完成するころには、技術も身につけているというわけだ。レンガなど材料をつくる工場では賃金が支払われ、とりあえずの仕事も確保できる仕組みである。二石一鳥、いや三鳥もの素晴らしいアイデアである。建築費と土地の代金は長期の割賦で返済させている。このようにして新しい街を育て、スラム化することから防衛している。

## 住宅困窮者に提供される宅地の利用状況 (ウィリアム・フォンセカ)



便所スケッチ

問題で、政府や市との協力関係が成立し、政策決定に参加している。また、学校でも実務教育が重視され、生物系農業の開発、残留農薬から地下水を守る研究、森林保護のための効率のいいかまどの研究、あるいは薬効性のある植物の研究など、市や市民と連帯して地味な研究にも相当の努力が払われている。

## リゾートでリフレッシュ

レオンから13kmほど西の太平洋に面したリゾート、ボネロヤに行った。あるソモサ時代別荘は、いまは市の迎賓館として使われている。地上2階、屋上はデッキ、地下は倉庫や従業員室など、10mほどのプールが多分毎日清掃され使える状態となっていた。

この迎賓館の目の前にある家は、管理人の住まいだ。奥さんと14の娘を頭に4人の子供がいる。この国の1家庭の子供の平均は7〜8人というから、少ないほうだろう。近くのリゾート・レストランは外壁がなく、椰子の葉で屋根を葺いただけの粗末なつくりだが、ビール、タイとエビのスープでうまい夕食ができた。帰りに暗い道を歩くと、ホテルの明るい光がきらきらしていた。

# エピローグ

ニカラグアの都市の現状は、悪化の一途をたどっているように見えた。しかし、行政、市民ともに問題抽出のた

めに連絡会議を開き、できるところから手がかけ、少しでも解決できるよう努力していることも解った。また、将来都市は機能を失いつつある。とくに都

市の維持に欠かせない上下水道とゴミの問題、汚しつくしてしまったマナグア湖の浄化問題など、どれをとっても緊急でない懸案事項はない。

これまでの日本をはじめとする各国の援助は、機材や資材など即効性のも

◎本記事は、筆者が国際協力事業団から派遣された水道改善プロジェクトの一員として、ニカラグアを訪れた際の建築や都市の印象をまとめたものである。現地滞在中、多くの人にお世話になった。とくに次の方々には、名前を記して感謝の意を表したい。  
TICA 専門員 下田道敏、大塚、/ 物産を産大 渡辺 本吉、/ 行政 鈴木 邦治、/ 2 番 藤田 植村、/ 青年海外協力隊 長岡 潤、/ 藤田 祥子、藤田 麻紀子、有田 陽一、大塚 俊介、伊藤 美穂